

**九州・沖縄母子保健研究出生時追跡調査の結果
妊娠中の喫煙及び受動喫煙と出生時アウトカムとの関連**

背景：西洋諸国では、妊娠中における母親の能動喫煙が子の出生時低体重の最も重要で予防可能なリスク要因であると認識されています。一方、母親の受動喫煙の影響については、明確な結論は得られておりません。本邦では、たった一つの研究で能動喫煙の影響が調べられています。

方法：九州・沖縄母子保健研究のベースライン調査と出生時追跡調査に参加した 1590 組の母子の内、多胎の 23 組と子供の性別が不明の 2 組を除いた 1565 組の単胎の母子を対象としました。出生時体重 2500 g 未満を Low birth weight (LBW)、出生時 37 週未満を preterm birth (PB)と定義しました。在胎期間別出生時体格標準値に従い、性別、初産経産別、在胎週別に出生体重が 10 パーセントイル未満を small-for-gestational-age (SGA)と定義しました。能動喫煙は以下の 4 カテゴリーに分類しました:1)妊娠中を通して非喫煙; 2)妊娠初期のみ喫煙; 3)妊娠通してではないが、中期或いは後期に喫煙; 4)妊娠中を通して喫煙。

結果：7.7%で LBW、4.0%で PB、7.8%で SGA でした。妊娠中非喫煙に比較し、妊娠中を通しての喫煙は有意に SGA のリスクの高まりと関連しました。能動喫煙と PB の量-反応関係は有意でしたが、補正オッズ比は有意ではありませんでした。能動喫煙と LBW とは関連はありませんでした。妊娠中非喫煙群と妊娠中を通しての喫煙群との補正平均出生時体重の差は 169.6 g でした。家庭或いは職場の母親の受動喫煙はいずれの結果因子とも有意な関連は認めませんでした。

結論：本邦で初めて妊娠中を通じた喫煙が SGA のリスクを高め、出生時体重減少と関連する一方、妊娠初期のみの喫煙はいずれのアウトカムとも関連がなかったことを示しました。

母親の妊娠中の能動喫煙	LBW	PB	SGA
	補正オッズ比	補正オッズ比	補正オッズ比
全く無 (n = 1427)	1.00	1.00	1.00
初期のみ喫煙 (n = 71)	0.52 (0.12–1.65)	2.51 (0.90–5.98)	0.53 (0.13–1.49)
妊娠通してではないが、中期或いは後期に喫煙 (n = 28)	2.75 (0.71–8.89)	3.14 (0.71–9.80)	1.93 (0.55–5.27)
妊娠中を通して喫煙(n = 39)	2.17 (0.48–7.14)	2.06 (0.47–6.34)	2.87 (1.11–6.56)
P for trend	0.19	0.048	0.04

出典： Miyake Y, Tanaka K, Arakawa M. Active and passive maternal smoking during pregnancy and birth outcomes: the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. BMC Pregnancy Childbirth. 2013; 13: 157.